

2月17日（金）3階A室 9：00～9：40

1 単元名 その人の声はどこから？

単元目標	○自分の興味を中心を意識し、経験した表現形式の中で表そうとする ○友だちの作品から書き手の表したいことを感じとり、表し方に目を向ける
------	---

2 単元について

4年生は、思考の様式が変化し始める転換点である。子どもたちの話し言葉や書き言葉を見聞きして、大きな違いを感じるのには、自分を出す喜びとして話して（書いて）いるのか、他者に伝えるという目的意識をもって話して（書いて）いるのかの違いである。

10歳を迎えた子どもたちは、経験をプライベートなものとしてしまっておくようになってきている。また、ノートや日記作文の記述は、背景や根拠・筋道立てた表現は意識されにくく、自分が考えたことを「伝える」ためのことばになっていない。

そこで、書き言葉を媒介として他者のことばに意識を向ける単元を構想した。本単元での「声」は、書き手が表そうとする想いを言い換えたものである。どのことばから書き手の「声」を感じるのか、書き手が工夫している点は何か、自覚的に聴く場を重ねることは、私の表現を公に開いていくことにつながる。表現が他者に開かれることによって、「伝えるためのことば」を自覚的に選んでいくのである。

毎時間の授業では、前半に書き手の「声」を感じたり、書き方が意識されるような場面、後半に聴いたことを生かしながら自分の作品に向かう場面を設ける。作品を仕上げていく過程は個別指導を中心にしますが、子ども同士の学び合いができるように、表現形式やテーマによって、学習グループを設定する。

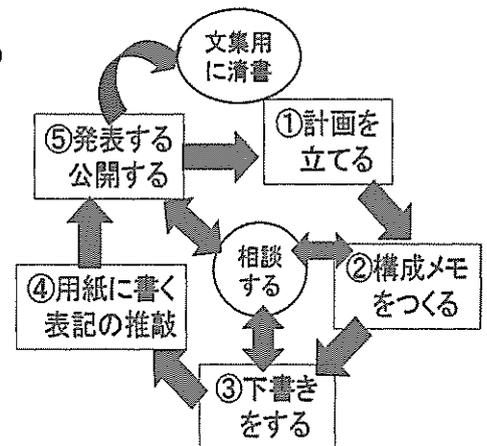
作品のテーマは「十歳の今（仮）」とする。幅の広いテーマとしたのは、題材や表現形式を選んで書けるようにするためである。表現形式は、紹介文（得意なことや好きなものについて具体的なエピソードを用いて知らせる）説明文（関心をもったことについて、問いを立てたり例を挙げたりして説明する）物語文（一人称視点から書かれた物語の冒頭のような文章）の三つを想定している。

この単元で最も大切にしたいのは、自分の表現に足りなかったものを自覚し、それを取り入れようとすることである。それぞれが「今の自分」を意識しながら表現を更新できる授業について、個の活動と他者の声を通して考えたい。

3 学習指導計画（週2時間の常単元 12時間目／全16時間）

- (1) 川柳や短歌の言葉から作品の「声」を考える 2時間
学習材：クリスマスカード
- (2) 友だちの作品から作文の技を見つける 3時間
学習材：今年の一字
- (3) 物語から、一人称視点での書き方を体験する 2時間
- (4) 文集の出版に向けて、見通しをもつ 1時間
- (5) 作品完成に向けた個人学習に取り組む 本時4／6時間

※図1の①～⑤をテーマや表現方法を変えて繰り返す



4 本時

(1) 本時のねらい

友だちの作品から取り入れたいところや付け足したいところを見つけ、自分の作品に向かう

(2) 予想される本時の展開

学習活動	留意点
1 友だちの発表を聴く ○友だちの工夫や、読み手がもう少し知りたいことに気付く	・作文のワザとして名付ける ・書き方の工夫を取り上げる
2 自分の作品に向かう ○計画に沿って個人で進める	・学習ペアに相談してもよい
3 「作品の声」を考える ○筆者の表したいことについて考える	・話の筋道を考える